

第7回下水汚泥有効利用勉強会を開催しました

滋賀県では、順次更新時期が訪れる汚泥処理施設について、職員の知見を深め、更新時の参考とするため、汚泥有効利用についての新技術を勉強する場として、令和3年度から職員向けの勉強会を開催しています。

第7回は、下水道課が令和4～6年度に実施した「下水汚泥の有効利用調査研究」の3年間の成果等を受託者である滋賀県立大学等より報告いただき、下水汚泥有効利用に関する知識を深める勉強会としました。なお、今回の勉強会は下水汚泥有効利用調査研究 最終報告会を兼ねています。

令和7年3月27日(木)に開催しました概要を報告します。

委託研究では下水汚泥の有効利用において、メタン発酵（バイオガス有効利用）→ヒ素除去→農業利用（液分は液肥、固形分はバイオ炭）の研究を実施しました。その際重金属を溶出させるpH条件等の検討を行い、全体プロセスのコストや収益収支、温室効果ガス排出量の削減量の試算がされています。勉強会では、担当研究者から各研究発表を聞いて、今回の調査研究全体のプロセスを再確認し、各プロセスでの課題なども把握することができました。



勉強会開催の様子（対面、リモートで開催）



研究発表の様子（滋賀県立大学 伴 先生）

勉強会には琵琶湖環境部、下水道課、南部・北部流域下水道事務所等から約15名が参加しました。

本研究はこれで終了となりますが、今後も研究の関係者と連携を保持しつつ、本研究の技術やコスト検討といった成果を今後の浄化センターの汚泥有効利用の具体的な検討に活用していきたいと思っております。